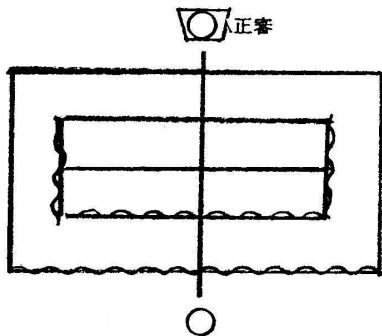


| 審判用語 | 意味 |
|------------------|--|
| レ デ ィ | 練習を終え、試合を始めるためのコール。(練習は1分以内) |
| セブンゲームマッチ プレーボール | 試合を始めるためのコール。7ゲームのとき |
| レ ッ ト | サービスされたボールがネットにあたり正しいサービスコートに入ったときなどのサービスのやり直しに使うコール。 |
| ツー・モア・サービス | 第1サービスのやり直しに使うコール。「レット」に続いて使う |
| ワン・モア・サービス | 第2サービスのやり直しに使うコール。「レット」に続いて使う |
| フットフォールト | サービスをしおわる前にラインを踏んだり、コートに入った場合 |
| フォールト | 第1サービスの失敗。 |
| ダブルフォールト | 第1、第2サービスをともに失敗したとき。失点 |
| ダイレクト | サービスされたボールをノーバウンドで返球した場合。失点 |
| ア ウ ト | 打球がアウトコート、審判台などに触れた場合。 |
| (イ ン) | (特にコールはしない。ソフトテニスではセーフは使わない。) |
| ノーカウント | そのポイントのやり直し。(第一サービスからやり直す。) |
| タ イ ム | プレーを中断させるときのコール。 |
| ノータイム | タイムを終えるコール。 |
| ネットタッチ | プレー中、身体ラケットがネットに触れたときのコール。失点 |
| タ ッ チ | プレー中、身体などが審判、審判台に触れたときのコール。失点 |
| ネットオーバー | プレー中、身体、ラケットなどがネットを超した場合。失点 |
| ス ル ー | ネットのすきまや穴をボールがくぐったときのコール。失点 |
| ボディタッチ | プレー中、打球が身体に触れたときのコール。失点 |
| チ ッ プ | ボールがラケットにかすったときのコール。失点 |
| ツーバウンズ | ツーバウンドしてしまったときのコール。失点 |
| ド リ ブ ル | 2度以上ラケットにボールが触れた場合のコール。失点 |
| キ ャ リ ー | ラケット上でボールが静止したときのコール。失点 |
| コレクション | 正審がコール又はカウントを間違えて訂正するときのコール。 |
| チェンジ・サイズ | 奇数ゲーム終了時とファイナルゲームの2, 6, 10, 14…ポイント終了時のサイド、サービスの交替の指示。 |
| チェンジ・サービス | 偶数ゲーム終了時とファイナルゲームの4, 8, 12, 16…ポイント終了時のサービスの交替の指示。 |
| インターフェア | レシーブが終わる前にそのパートナーがサービスが入るサービスコートにはいると妨害となり失点となる。 |
| 警告 | 1回目イエローカード、2回目イエローカード、3回目レッドカード(失格) |
| タイムズ・アップ | チェンジサイズなどの時間が規定以上に長い場合。 |

- ※1 監督(コーチ)の助言は、チェンジサイズ時又はファイナルゲームに入る前の、移動も含めた1分間のインターバル間だけに認められています。
- ※2 ソフトテニスでは、審判は笛を使いません。すべて、コールとサインで試合を進めていきます。プレーボールやカウントのコールが次のプレーを始める合図となります。大きな声で、プレーヤー(サービスの時にはサーバー)に向かってコールしてください。アウトやフォールトなどプレーを止める場合にも、コールをします。選手はコールが聞こえたらプレーを中断してしまいますので、余分なコール(イン、セーフなど)はしないようにしてください。アウト、インで迷う場合には、コールはせず、プレーの決着がついた後に、ボールの跡を確認してからコールすることもできます。
- ※3 マッチ中に審判に質問ができるのは、団体戦ではチームのメンバーと監督。個人戦では試合をしている選手のみ(監督は×)です。

[正審と副審の判定区分]

- ・ ネット上は正審、副審両方がみる。
- ~~~~ は、副審がジャッジする場所
(正審は副審のサインをみてからそれに従いコールすること)



[副審のサイン] 副審

アウト: 副審側のサイドラインのジャッジをする。
ボールの落下点方向に体を真横に向け正審と反対側の手を真っ直ぐ上にあげる。

フォールト: 副審側のサービスサイドラインとサービスラインのジャッジをする。
サービスラインの延長上にサーバーの反対側の足を半歩前に出し、少し膝を曲げてかまえ、サーバーの反対側の腕を直角にまげる。
ネットにかかった場合はサインをしなくてよい。

アウト



フォールト



- ・ 次のサインはコールもしてください。
- レット
- 第1サービス
- ノーカウント



ノーカウント



その他の判定
(ツーバウンズ、
ネットタッチ
など)



正審の動作

- ① 審判台上に位置(着席)する。
- ② 原則、正審はサインはしなくてよが、紛らわしいときは副審同様にサインをすることが望ましい。

正審のコール

正審のコールは自信を持って大きな声ではっきり行う。
コールがあった時点で、プレーは中断するので、不必要なコールは絶対にしないこと。

A 「アウト」

ボールがアウトとかインとかを判定する場合は、アウトのみコールし、インについては一切コールしない。アウトの場合でも「アウト」とのみコールして、「バック・アウト」といわない。

B 「フォールト」

第1サービスが正しく入らないで失敗したら「フォールト」とコールして、第2サービスも失敗したら「ダブル・フォールト」とコールする。

C 「フット・フォールト」

サービスをしている人がベースラインに触れたり、センターマークとサイドラインの間のベースライン外に出たら「フット・フォールト」とコールして、そのサービスはフォールトになる。

D 「レット」

サービスしたボールがネットまたはネットポストに触れ正しいサービスコートに入ったら、そのサービスは「レット」とコールしてやりなおす。この場合、「レット」に続いてレシーバーの準備ができたなら「ツー・モア・サービス」または「ワン・モア・サービス」とコールする。(左の絵は第1サービスのレット)

正審のコールの前にサービスをしたり、相手がレシーブの用意ができていないのにサービスをした場合は「レット」とコールし、サービスをやり直させる。

E 「ノーカウント」

採点をしないでやり直すこと。なんらかの事故による場合であって、ルール上にある場合のみで、むやみに正審の判断でノーカウントにしてはならない。

F その他

「タイム」「ネット・タッチ」「ネット・オーバー」「タッチ」「ツー・バウンズ」「ドリブル」「ダイレクト」「キャリー」「インターフェア」「チップ」「スルー」などいろいろあるが、だんだんと知っていけばよい。

副審のサインと動作

- ・ サーバーがサービスをしようとしているコートのサービスラインの延長上に立つ。
- ・ サービスがすんだらネットポストのところまでかけ足で行き判定する区分を受け持つ。

☆よくある間違い

副審がベースラインでアウトのサインを出してはいけません。(ここは正審が判定する)

